

郵便はがき



観光振興はだれのため

近年、道も札幌市も観光振興を経済活性化の主要な柱にしています。外国人来道者数は2020年度には現在の倍近い500万人を見込んでいます。私は日頃、路面電車を利用しますが観光客が多くなり、狭い車体で高齢者や仕事帰りの方などが窮屈そうにしています。観光振興は食品や宿泊関連部門などへの増収をもたらしますが、経済面のみでなく、まちづくりの総合的な視点から求められます。市民生活の快適性向上を図りながら、公共交通機関や医療機関なども含めて観光地としてふさわしく整備していくことが、観光客へのホスピタリティではないでしょうか。

北海道議会議員(札幌市中央区選出)小林郁子事務所発行

〒060-0061 札幌市中央区南1条西11丁目みたか南1ビル

Tel.011-219-8111 Fax.011-219-7557

(ホームページ) <http://www.kobayashi-ikuko.com>



小林郁子の

さわやか道政報告

2018年 秋号

丘珠空港のあり方検討には 住民合意が不可欠

札幌都心部に近い丘珠空港をもっと活用できないかとの声が経済界から上がり、札幌市と道が2016年に検討会議を設置しました。併せて、専門機関に活用にあたる課題などに関し調査委託しています。丘珠は防衛省と民間の共用空港であることが周辺には住宅街が拡がっていることから、現在は運行時間帯や離発着回数などに制約があります。検討開始の背景には、JR北海道の廃止も含めた路線見直しや

道内7空港の一括民営化が予定されており、丘珠空港への期待が増していることがあります。しかし、滑走路延長とジェット化の是非を検討するには、新千歳空港との役割分担を含め丘珠空港の道内での位置づけを明確にすることが最低限必要です。周辺住民にとって空港のあり方は生活に大きな影響を与えます。利活用にあたっては、何よりも住民との合意形成が不可欠です。



児童相談所の体制充実を

児童虐待の痛ましい事件が後を絶ちません。道内でも、児童相談所における児童虐待相談対応件数は2016年度4825件で増加傾向です。対応にあたる児童福祉司は人口4万人に1人

以上の基準で配置されており、虐待通告があつた場合、48時間以内に安全確認を行うこととされています。しかし、ここ数年の対応件数の急増や困難事例の増加のほか、児相一力所あたりの所管面積が広い道内特有の事情があり、児童福祉司の増加など児相の体制充実と、道と児童家庭相談の第一義的な窓口である市町村の役割と責務を明確にすることが求められます。また、虐待防止のためには、子どもに接する保育園、学校、病院など地域での目が大切であり、気づくことがあれば児相や市町村に連絡し連携を図ることが、子どもやその家庭の支援につながります。

